

## **【研究課題】**

# **行政解剖における硬膜下血腫の死後 CT の特徴と病理学的変化について**

研究期間：2016年11月1日～2021年3月31日

硬膜下血腫は主に外傷によって生じ、その性状や量によって重症度が異なるが解剖では観察が困難であり、死後 CT が有用である。そこで東京都監察医務院における解剖例のうち広範囲の硬膜下血腫が確認された 49 例を対象とし、死後 CT 画像から硬膜下血腫の性状を検討した。その結果、硬膜下血腫の性状は、一層性(高吸収/低吸収)、沈降(軽度/高度液面形成)、不均質(混合/多層性)に大別され、硬膜下血腫の時間経過や再出血の病態を反映した所見と考えられた。一方液面形成は、一般的には死後 CT 画像では死後変化によって形成される所見であるが、硬膜下血腫の場合は生前でも生じ得る所見のため、病態評価には両者の所見の比較検討が必要と考えられた。